

## 令和4年度地域保健等に関する調査研究助成について

◇地域保健部◇

北海道医師会では、本道の地域保健等の向上・推進に資する調査研究活動への助成事業を実施しております。昨年度は以下7つの調査・研究に対して助成いたしました。

調査・研究内容の詳細については、北海道医師会ホームページに随時掲載いたしますのでご覧ください。

●掲載はこちら 北海道医師会トップページ → 北海道医報 → 2023年9月1日[第1260号]

<p>■執筆者 小池 明美（札幌市医師会/札幌市学校医協議会） テーマ 札幌市の学校健診における成長曲線有効利用の実態と健診後調査結果 －新型コロナウイルス感染症が札幌市の児童生徒の体格指数に与えた影響について－ 「札幌市の学校健診における成長曲線有効利用」の実態、および健診後調査を行い、その有効性についての検討を行った。また、新型コロナウイルス感染症蔓延による生活環境の変化が、札幌市の児童生徒の体格指数に与えた影響について考察した。</p>
<p>■執筆者 武田 充人、澤田 陽子、布施 茂登、山澤 弘州、和田 励 （札幌市医師会/札幌市学校医協議会/札幌市心電図判読委員会） テーマ 令和4年度札幌市学校心臓検診に関する調査検討 令和4年度の札幌市学校心臓検診に関する調査検討結果を報告する。精検受診率はコロナ禍であったことより例年より低く小中学校で75%前後であった。有所見率は70%前後で高い数字となった。病名は例年通り心室性期外収縮およびWPW症候群が多く要管理者数は精検受診者の50%であった。</p>
<p>■執筆者 高木 摂夫、新谷 朋子、佐野 宏行 （札幌市医師会/札幌市学校医協議会/札幌市耳鼻咽喉科医会学校保健委員会） テーマ 新型コロナウイルス感染症拡大時の耳鼻咽喉科検診結果 新型コロナウイルスの感染拡大により、その他の感染症の罹患率にも変化が起こっている。 主に耳および鼻咽喉頭を観察する耳鼻咽喉科学校検診の結果にもこのような変化がみられるのか、2021年の検診集計結果を用いて比較検討した。</p>
<p>■執筆者 水関 清、平田 博巳、中島 滋夫（函館市医師会/函館動脈硬化懇談会） テーマ Point of Care超音波検査を活用した腹痛患者診療の質的向上に関する研究 ～ Point of Care超音波検査所見を、どのようにして系統的超音波検査につなげるか～ 「急性腹痛のPOCUS」を行う中で得られた所見をKeyとして、発見された疾患または状態に対して、二次的に系統的走査を追加して包括的に評価することで診断確定に至った例を検討した。その結果、腹痛という病態に対する臨床推論の質が向上するという、診療の流れの中におけるPOCUSの寄与が明らかになった。</p>
<p>■執筆者 中村 育子、塚原 高広、荻野 大助、江連 崇、澤田 知里、及川 智博、坂田 仁 （上川北部医師会/名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター） テーマ 過疎・寒冷積雪地域における健康づくりを目的とする基礎的調査 名寄市の在宅高齢者を対象とし、食の問題を抽出し、どのような食支援が必要か検討した。コロナ禍により買い物の機会が減り、人と会う、食事をするのが減少し、食に対する意欲や食欲が低下し、体重減少がみられた。管理栄養士の食支援が必要であると考えられた。</p>
<p>■執筆者 吾田富士子 古田 博文、吉木 美恵（北海道保育保健協議会） テーマ コロナ禍での保育実施に関する調査 第3報 新型コロナウイルス感染症が流行する中、密が避けられない保育を実施するにあたり、アフターコロナに向けてどのような備えをすべきか考察するため、調査を行ってきたが、2022年度においてもコロナ禍第7・8波のなかの保育現場の感染状況やワクチン接種の実態、マスクの装着、子どもや職員のメンタル面の状況、行事に対する意識、保護者のワクチンに対する意識等を調査した。 また、保育に関わる事故を受け、あらためて保育における人数確認の実態についても調査を行ったので報告する。</p>
<p>■執筆者 野上 和剛 石原 舞 土田 晃（北海道小児科医会） テーマ 北海道における小児アレルギー疾患の診療と連携の実態調査 北海道における小児アレルギー診療や連携に関する現状を、道内の小児医療機関に対するアンケートによって明らかにする調査を行った。調査研究によって課題点を抽出し、北海道における今後のアレルギー診療や体制構築に必要な事項を明確にする。</p>